



TITLE:

第4章地球工学科シンポジウム

AUTHOR(S):

小野, 紘一; 斎藤, 敏明; 建山, 和由; 杉浦, 邦征

CITATION:

小野, 紘一 ...[et al]. 第4章地球工学科シンポジウム. 京都大学高等教育叢書 2001, 12: 35-52

ISSUE DATE:

2001-12-27

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/53663>

RIGHT:

第4章 地球工学科シンポジウム

小野紘一 斎藤敏明 建山和由 杉浦邦征

4.1 シンポジウムメンバー紹介

S 1	不満の多い学生の要望	T 1	ものわりの良い教官の回答
S 2	目的を持った学生の要望	T 2	手厳しい教官の回答
S 3	普通の学生からの要望	T 3	普通の教官の回答・コメント
F x	フロアーからの意見	C x	コメンテーターからの意見

4.2 アンケートの概要説明

4.2.1 地球工学科のカリキュラムについて

地球工学科へ入学した学生は、2年間の一般教養科目、理系基礎科目の履修の後、3年生への進学時において、土木工学コース、環境工学コース、資源工学コースの各コースに分かれて配属される。さらに、4年生で各コースの研究室に配属され、担当教授の指導の下、特別研究をまとめ上げ、卒業に至る。

アンケートの対象として今回取り上げた各コースの基礎科目①「土質力学Ⅰ及び演習」（土木）、②「地質工学および演習」と「物理科学基礎」（資源）、③「水・土壌環境工学」（環境）は、3年生前期に配当される選択必修科目であり、ほとんどの学生が履修している。アンケートは、3回生を対象に、後期期間中の12月に上記関連科目に関連した講義中もしくは講義の間の休み時間中に実施し、それぞれに対して102、30、35名の回答を回収した。

4.2.2 個別講義についての評価（アンケート第Ⅰ部）

各科目のアンケート結果の要点は、下記の通りである。

- ・70%～80%の学生が、出席率90%以上である。出席理由としては、「重要な科目である」、「出席をとる」、「レポートが課せられている」などであり、逆に、欠席の多くの理由は、朝寝坊である。
- ・「まあまあおもしろかった」が平均的な回答である。
- ・講義が分かりにくいと回答した科目の合格率は低く、わかりやすいと回答した科目では、ほぼ100%の合格率であった。
- ・講義を分かりやすくした要因としては、「レポート・演習が手助けになった」、「ビジュアルな講義であったため」、「実験科目が並行して開講されていたため」等が挙げられる。

逆に、分かりにくくした要因としては、「講義スピードが速い」、「雑」、「前提知識の不一致」が挙げられる

- ・復習は、レポートの都度もしくは試験直前のみにしか行わない。
- ・予習は、まったくしていない。
- ・試験後の感想として、「十分理解していないが、将来必要となれば復習可能」と考えている学生が多い。

4.2.3 カリキュラムについての評価（アンケート第Ⅰ部）

学科全体のカリキュラムに対するアンケート結果の要点は、下記の通りである。

- ・将来に対してそれなりの希望はあるが、明確なビジョンを持たない学生が、全体の 70% を占める。
- ・学科における学習内容と自分の興味が一致していない学生が多い。
- ・途中でつまずいてもそこそこ単位は取れると実感している学生が多い。
- ・年度始めのガイダンスでもっと体系的な説明を求めている学生が多い。
- ・多く登録しても損はなく、とりあえずたくさんの科目を登録する傾向がある。
- ・4年間で徐々に興味が持てるようなカリキュラム編成を望んでいる学生がいる。
- ・コース選択、研究室配属に関する的確な情報を求める学生が多い。
- ・ゼミ形式の講義を望んでいる。
- ・多くの学生が、講義での板書の良し悪しを気にしている。
- ・数学、物理で 60%以上の学生がつまずく一方で、専門科目でも、40%近くがつまずきを経験している。数学、物理、専門科目の順でつまづく傾向にある。
- ・つまずきの理由として、講義が悪いを挙げているが、自分自身も悪いと自覚している学生は多い。

4.3 パネル討論

4.3.1 個別講義についてのパネル討論（アンケート第Ⅰ部）

S 1：講義にあまり魅力が感じられません。講義の進め方に問題があり、例えば、

- ①板書が汚くて、読みづらいです。
- ②声が小さくて、はっきり聞こえません。
- ③あまりにも講義のスピードが速くて、ついて行けません。
- ④科目内容に関係の無い雑談ばかりされる場合があります。
- ⑤あまりに難しい理論ばかり話をされると、嫌になります。
- ⑥わかりづらいテキスト・プリントが使われることが多々見られます。
- ⑦配布資料を OHP で説明するだけの講義では、わかりづらいです。

等が挙げられますが、理論より現場での経験に基づく話などを含め、是非魅力ある

講義となるよう改善してほしい。

T 1 : 講義技術に関しては、問題点の内、容易に改善できるもの、例えば、①板書の汚さ、②声の小ささは、

①講義の要点を分かり易くまとめたプリントを用意する。

②板書は、大きな文字で丁寧に書く。

③活用可能なプレゼンテーションツールを使う。

などして改善するよう心がけましょう。また、学習の動機付けに関しては、

①科目内容の中で何が重要で、将来どのように発展するか等の学問的な見通しを分かり易く説明する。

②実務でどのように活用されているか、将来どのように役に立つのかを先輩の声等をかり、興味を持てるように説明する。

などして多くの知的刺激を与え、興味を持てるよう資料作りも工夫して、努力しましょう。

T 2 : 大学教育は、高校までの教育と異なり、学生自身が主体的に学ぶことが基本原則だと思います。学生が自ら学習に対する意識改革をすべきと思われます。例えば、

①朝寝坊

②アルバイト

③他の活動等

で、講義を欠席したり、講義に遅刻して来る場合が多く見られますが、これは論外です。

T 3 : 教官側にも、講義の他に種々の職務があり、講義の準備に十分な時間が割けないこともあります。また、毎年毎年、最近の技術革新も取り入れて、講義資料等を更新する時間を確保することは、非常に難しい場合が多いです。大学は、研究を通して、教育を行うところとも考えられるので、初等・中等教育のような出席を重視した教育より、京大らしい自由な教育を実施したいと考えている。

S 3 : 大学では、勉学のみでなく、クラブ活動等も行い、交友関係を広めることも重要と思われます。勉学をより効率的に進められるように、例えば、

①朝 1 限の講義の開始時間を遅らせたり、朝 1 限に難しい講義は配置しない。

②演習内容を充実させる。

③実験科目を併設する。

④現場見学などにより実学とのつながり、動機づけを行う。

等により、学生をもっとていねいに指導してほしい。

T 2 : 地球工学科 3 回生の時間割は、非常につまんでいると思われるが、他の学年においては、比較的ゆったりとした履修計画が組立てることができる。予習・復習をしないで、科目内容を十分理解できとは思われないので、十分な自主的学習が望まれる。また、1 コマの講義に対しては、2 時間の自学自習を加えて 2 単位となることにも、十分に留意すべきである。

S 2 : 予習が必要と言われるが、テキストが無い場合は、事前にプリントを配布すべきで

あり、テキストがある場合も、次回の講義範囲を的確に指摘していただきたい。また、レポート課題に対しては、復習・自学のためにも必ず解答を示してほしい。一方、実験・演習を伴う科目においては、他の講義のみの科目より学習に時間を要するが、認定単位数が少なすぎる。

T 2 : 講義に対しては自学自習の時間が含まれており、学生の間での認識不足と思われるので、今後、年度始めのガイダンス等で周知する必要があると考える。

S 2 : 地球工学科では、並行講義・リレー講義が多くあるが、

①教官間での力点を置く科目内容が異なる。

②十分な引継がなされていないリレー講義は、講義内容が重複することにより、時間の浪費であったり、全体の展望が分かりづらい。

等の問題点があり、学生の自主性が十分発揮できるようクラス（担当教官）を選択する権利等を学生に与えて欲しい。また、一人の教官で半期を通して講義をしてもらいたい。

T 3 : 並行講義を組む理由は、小人数教育が有効と考えるためである。ただし、講義室数、その収容人数などで制限を受ける場合もあり、クラスの指定を行っている。一方では、担当教官間では、十分な連絡を取り合っており、問題は少ないと考えられる。ただ、講義に特徴を出すのも教官の教育熱意の現れであり、科目内容そのものを理解する上では、何ら支障が無いことを認識してもらいたい。また、リレー講義において教官間の連携が不足している場合があれば、十分な調整を執り行うよう徹底する。

T 2 : 理論の講義と理解度を高める演習とのバランスは問題であるが、学生－教官の相性で理解度が異なるとは理解できず、到底受け入れられない。

S 1 : 共通試験が課せられる並行講義の場合、各クラス担当の教官の講義の重点が異なると、講義内容が成績に公平に反映されるとは思われない。各クラスで異なる試験が実施されたとしても、クラス間で公平な成績が出されている保証は無い。例えば、他のクラスの同級生の普段の学習態度では、成績が若干底上げしているとも考えられる。また、最終成績を聞きに行ったが、教えてもらえなかった場合もあり、学習目標を立てる意味でも、評価の基準を明確にしてほしい。

T 1 : 成績の底上げは、あれば適正化する必要がある。また、成績評価の方法は、地球工学科としてどのような学生を望むのか、どのような教育目標を設定しているのか周知徹底するよう努める必要がある。

以上の議論を通して、教官と学生の間には、大学で何をどのように学ぶべきか対して意識のずれが認識され、今後のこのずれを小さくするよう努力することが望まれる。

C 1 : このようなアンケートの実施が、授業技術向上を目的とするものか、学生に勉学の意欲を促すためのものであるかは不明であるが、地球工学科としてどのような学生を望み、どのような教育目標を設定するのが重要である。例えば、高度技術者養成

を目標とするのか、研究者を養成することを目標とするのかである。

- C 2 : 成績の底上げが悪影響を与えている可能性がある。カリキュラムの問題もあるが、教材の選択にも問題があることを認識すべきである。
- F 1 : 大学の教育のビジョンを明確にすることは、技術者教育、JABEE 認定のための作業と密接に関連することに留意する必要がある。

4.3.2 学科カリキュラムについてのパネル討論（アンケート第Ⅱ部）

- S 1 : 一般教養科目の履修の必要性はどこにありますか。あまりその必要性が感じられません。特に、
- ①人文・社会学関連の科目は、不用と思います。
 - ②第2外国語は、何のためにあるのですか。英語をもっと増やしたほうが良いです。
- と考えますが、教官の考えをお教え下さい。
- T 2 : 大学は、専門学校とは異なり、全人教育を実践し、社会での一般教養を身につけることも必要である。一般教養の身に付け方は、個人差が大きいので、自分自身にあった方法を是非探して欲しい。また、最低限の教養の獲得を要求しているのではなく、専門外の分野での系統的なものの考え方などに触れることが重要である。
- T 1 : 現在の全学共通科目の在り方に関しては、疑問視される点もあるので、TV、新聞、書籍、旅行等からにより多角的に習得してはと考えます。
- S 2 : 数学などの科目の講義は、あまりに哲学的で抽象的です。それと、学習していない数学の知識を必要とする専門科目が低学年であり、つまずきの基と感じます。カリキュラムは、どのように決められているのかお教えてください。
- S 1 : 学習のスピードを十分考慮してカリキュラム編成をしてもらいたい。
- T 1 : 知的な営みとしての数学に触れるのが重要であり、完全な数学的な理解を前提としているわけでないことを確認すべきである。ただ、履修順序等の問題は、学生の理解度を把握した上で、適正なカリキュラムへと再編して行くべきと考える。特に、4年一貫教育において、一般教養から専門科目へ段階的に移行させている現行のカリキュラムでは、特に、数学・物理の基礎科目において、実用的活用の側面も視野に入れている。したがって、専門側の教育の工夫でも十分対応可能な点もあると理解している。また、地球工学科への改組に伴い、コース分け等を配慮してカリキュラムが再編され、問題点が指摘されれば、順次修正して行きたい。
- T 3 : 実験科目とそれに対応する講義の履修時期の調整不足も最近指摘されており、今後検討すべきと考えている。
- T 2 : 学期末試験を終え、最終成績の提出時に、履修登録者数と講義への出席者数（もしくは定期試験受験者数）が、甚だしく異なることが多い。履修者のコンピュータ入力など、事務上の手続き、資料の準備等が煩雑となるので、できるだけ履修する科目のみを登録してもらいたい。最悪、未受験者には、不合格をつけても良いと考え

ている。

S 2 : 今は、配当されている科目を取りあえず登録しておいて、

①授業内容の難易度

②科目の重要度

③アルバイト・部活などの時間 等

の諸般の状況を鑑みて、履修している。科目内容が、事前にわからないので致し方ない。カリキュラムの意義を十分には、理解していない。年度始めに履修ガイダンスがあるが、もっと具体的に科目選択について体系的な説明をしてもらいたい。

T 2 : 仮に要求された情報を先に提供したとしても、学生にビジョンがなければ、結果は同じである。逆に、独法化も見据えて、多重登録に対しては、金銭的なしほりを加えることも検討すべきと考える。履修単位に基づくGPAの算定などを実施すれば良い。

S 3 : 今回実施したアンケートは、もっと実施して欲しい。これまで意見を言う場が無かったので、できればすべての科目に対して実施するのが望ましい。できれば、並行講義に場合は、担当教官ごとに、提出は、事務室へとしてもらいたい。また、無記名での提出を望みます。

T 2 : 今後は、学生の意見を収集し、教育改善に役立てるため積極的に実施したく考えるが、その実施法、妥当な評価法を検討して行く必要がある。例えば、

①対象科目の範囲（必修、選択）

②記名（責任ある回答が期待できる）、無記名

③結果の活用法、公開手順 等

を具体的に調整する必要があるが、まとめるだけで相当な作業量があり、何らかの簡略評価法の整備が急務であると考えている。個人でこのようなアンケートを実施より、全体で進めることが大事で、より現実的であると考える。お互いの認識のずれは、少なくとも狭まると考えられる。

T 3 : 今後の課題として考えられるのは、

①ガイダンスの充実

- ・将来の進路について考えさせる。
- ・ビジョンを実現するために履修計画を具体化させる。
- ・各科目内容の将来への発展性を周知させる。

②授業評価アンケート

- ・実施方法および活用法の具体化
- ・学生からの意見の妥当性の確認の仕方である。

C 1 : 教官側の葛藤として、研究者を養成するのか、高度専門技術者を養成するのかがあいまいであり、しいては京都大学として自由（自学自習）の精神と卒業・修了生の品質保証をいかに確保するかが課題である。

C 2 : 学生の履修指導（単位取得）に関しても、

①必要最低限の単位を確保するだけで良い。

②予め必要以上に登録し、後日、最終履修を決定。

C 3 : 多用な入試により元気が良い学生が入ってきたとしても、入学後数年後にやる気を失せるのは、実際の教育に依存するところが多い。

C 4 : 授業評価のためのアンケート実施は、インタビュー形式で執り行うこともできる。

C 5 : 引きこもり救済のシステムが必要と考えられる。

C 6 : 京都大学は、自由な学風を有するにもかかわらず、研究配置のルールにおいては、そうでない場合もある。

F 1 : やる気を引く要因と不満を招く要因は一致しない。例えば、ていねいに講義したとしても、やる気を引き出すことにはならない。

F 2 : 学部コース、大学院コース、アカデミックコースなどの導入を試みる必要がある。

F 3 : 入学させた学生を卒業させることと研究者を養成することは、相反する。

4.4 学生の自由記述からのまとめ

第 4.3 節の議論は、学生の自由記述から重要と思われる点をキーワードとして抜き出し、議論のシナリオを策定した。教育の技術的な面を除けば、議論の流れから

①教育の基本理念の明確にする。

②学生側の意識改革を進める。

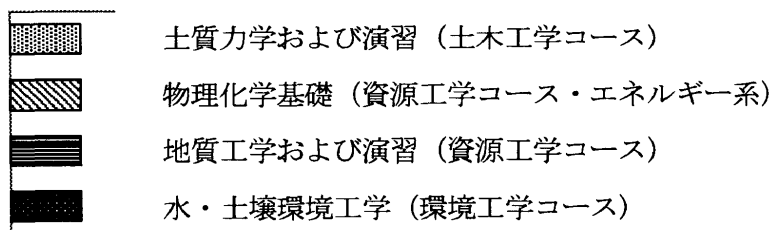
ことが非常に重要と考えられる。

特に、学生の多くは、一般教養の学習に疑問を持っている。特に、試験前だけ勉強して単位が取れる大学の講義・単位認定に意味があるかである。将来に対して自分の進む方向を選択するために、カリキュラムの内容説明を求めると同時に就職情報の早期発信、研究室配属の時期を早めるなどの希望を持っている。

結果的に、学生にはっきりとした将来ビジョンが無いことが、学習意欲が見られない最大の要因で、1996 年の改組による履修科目選択の自由度が高い大学科システムの弊害とも考えられる。とは言え、入学当初から学科の卒業生に求められる資質、また社会人として活躍を期待される分野を明確に示し、学生に明確な将来ビジョンを構築させるような指導、カリキュラム編成等を行なう必要性は高い。

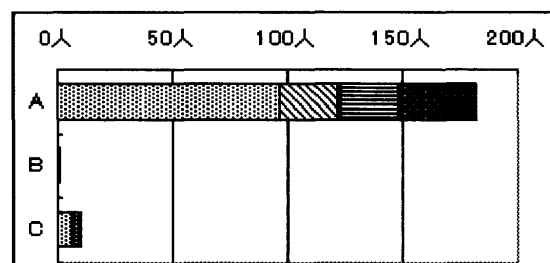
4.5 地球工学科アンケート結果

第Ⅰ部 地球工学科 前期科目について



質問0 この科目を履修しましたか？

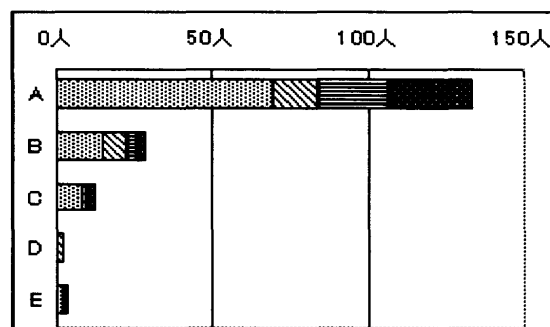
- A 履修して試験も受けた。
（以下、全部の質問に答えて下さい。）
- B 講義に出た（ことがある）が、試験は受けなかった。
（以下、第Ⅰ部の質問1～11 および第Ⅱ部の質問に答えて下さい。）
- C 講義にも出席したことがないし、試験も受けなかった。（以下、第Ⅰ部は省略して第Ⅱ部の質問に答えて下さい。）



（出欠および授業について）

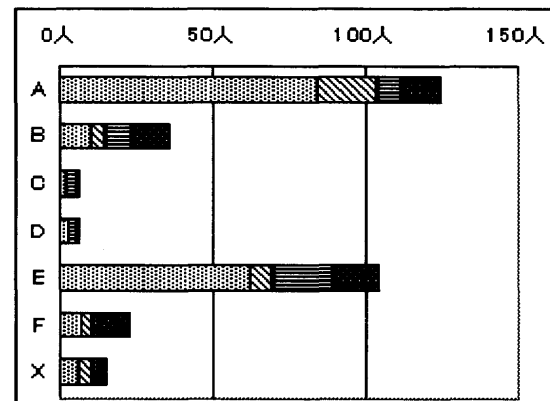
質問1 この講義にどれくらい出席しましたか？

- A 90%以上
- B 70～90%程度
- C 40～70%程度
- D 10%～40%程度
- E 10%以下



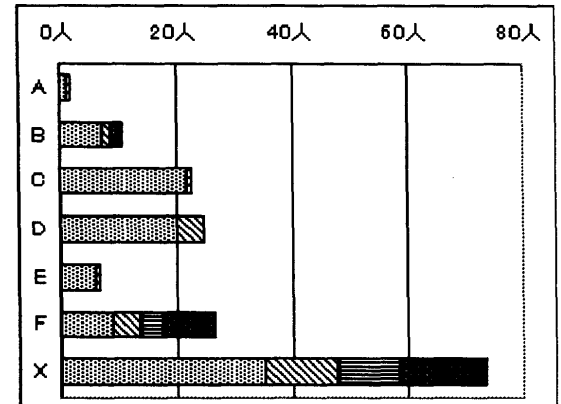
質問2 出席しようと思った主な理由は？[複数解答可]

- A 重要な科目だと考えたから。
- B 内容に興味をもてたから。
- C 授業が面白かったから。
- D わかり易かったから。
- E レポートが出る（または出席をとる）から。
- F なんとなく。
- X その他



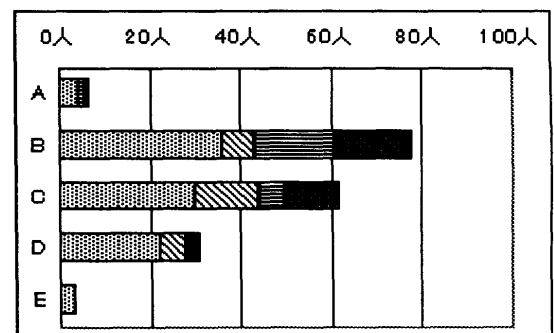
質問3 欠席した主な理由は？[複数解答可]

- A あまり重要でない科目と思ったから。
- B 内容に興味をもてなかったから。
- C 授業が面白くなかったから。
- D わかり難かった、または授業についてけなかった。
- E レポートが出ない(または出席をとらない)から。
- F なんとなく。
- X その他



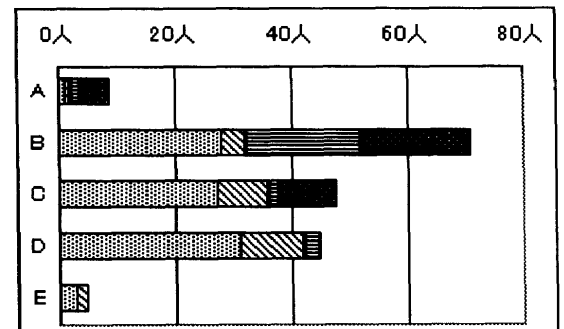
質問4 授業は全般的に面白かったですか、退屈でしたか？

- A 面白かった。
- B まあまあ面白かった。
- C どちらでもない。
- D 退屈であった。
- E 聞く気もしなかった。



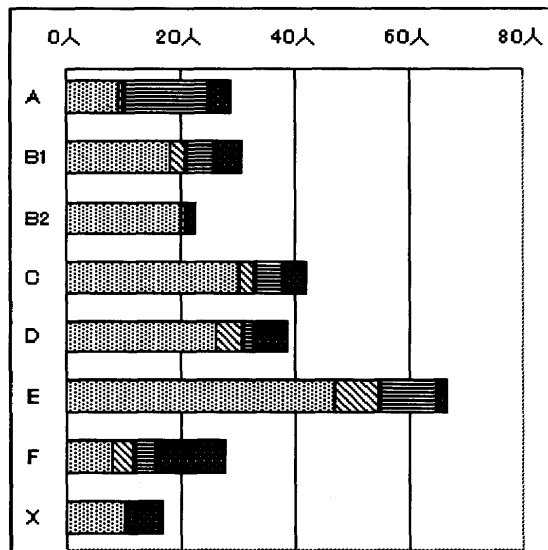
質問5 授業は全般的にわかり易かったですか？

- A 非常に分かり易かった。
- B まあまあ分かり易かった。
- C どちらでもない。
- D わかり難かった。
- E 非常にわかり難かった。



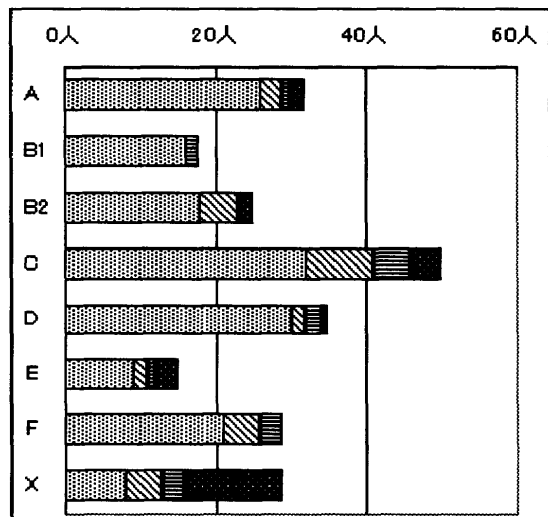
質問 6 授業をわかり易くした、または面白くした要因は何でしたか？[複数解答可]

- A 図・グラフ・模型など Visual な準備、その他 presentation の工夫があったから。
- B 話し方、板書など
 - B1 話し方が明確で声もよく聞こえた。
 - B2 板書がよみ易かった。
- C スピードが適切で説明も丁寧であった。
- D 学生がもっている知識の範囲に十分配慮して説明してくれた。
- E レポート課題、計算機演習などが与えられて、それを解くことで理解できた。
- F 教科書・プリントがよかった。
- X その他



質問 7 授業をわかり難く、または面白くなくした要因は何でしたか？[複数解答可]

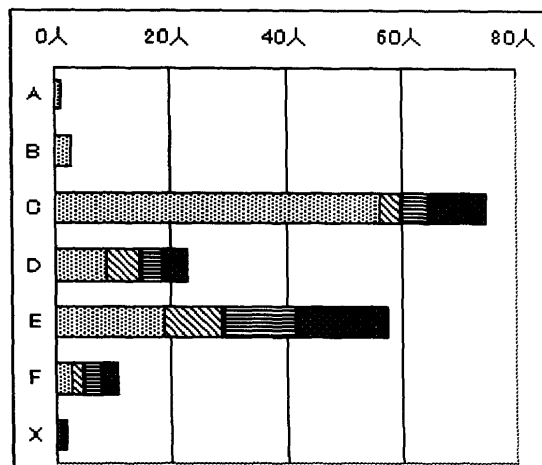
- A Visual な工夫がなく、ただ講義だけであったから。
- B 話し方、板書など
 - B1 話し方が不明瞭・声が聞き取り難い。
 - B2 板書がよみ難い。
- C スピードが速く、説明も雑であった。
- D 学生が知らないことを前提としてどんどん話題が進められていった。
- E 練習問題などが与えられなかった（または今、どれをやったら良いのか指示してもらえなかった）。
- F 教科書・プリントがよくなかった（まったくなかった）。
- X その他



(予習復習および教官の姿勢について)

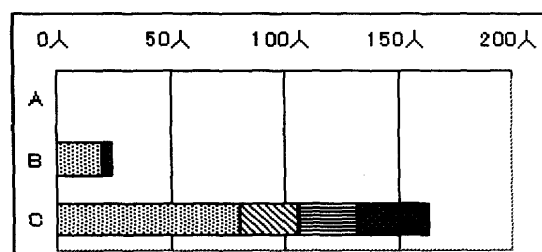
質問 8 復習をしましたか (していますか) ?

- A 毎回、進んだ部分には目を通して、練習問題もやってみている。
- B ほとんど毎回、講義ノート・教科書を見直す程度のことはしている。
- C レポート課題、計算機演習課題などが出題されたときに必要最小限度で復習している。
- D 期間中、1~2 度見直したことがある。
- E 試験前にまとめて勉強した。
- F まったく復習せずに試験だけ受けた。
- X その他



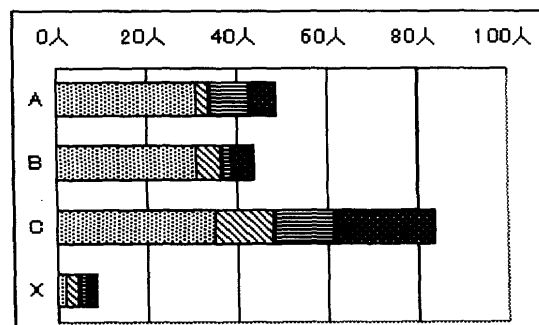
質問 9 予習しましたか?

- A 毎回、次のところを見てから授業を受ける。
- B 予習をしたことがある。
- C 予習したことはない。



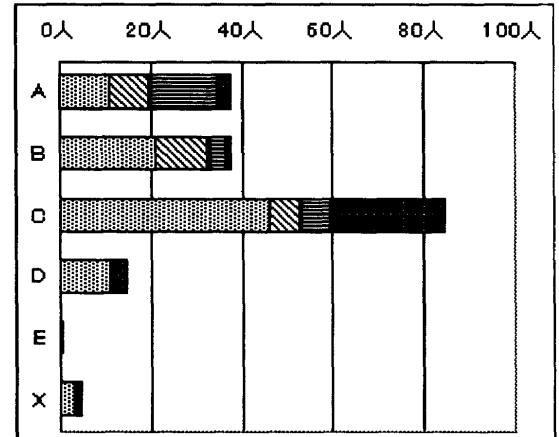
質問 10 授業中、授業後に質問するチャンスについて

- A 授業中または授業後に自由に質問できるし、したこともある。
- B 授業中または授業後に質問したいと思うことがあるが、教室の雰囲気や先生がつかまらない、といったことで質問し難い。
- C 質問したいと思ったことはない。
- X その他



質問 11 教官の姿勢についてどう感じましたか？

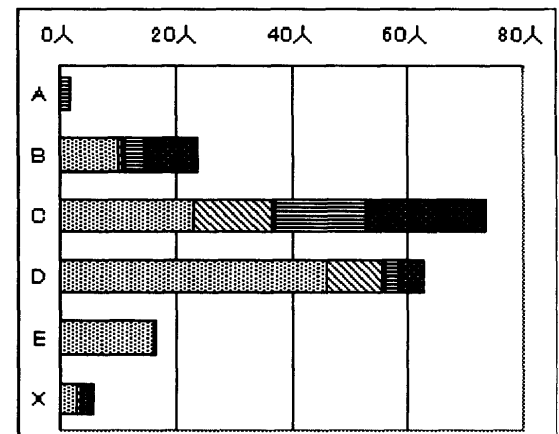
- A 非常に熱心に授業しており、受講者にも熱意が伝わって（出席すると）勉強する気にさせられる。
- B 非常に熱心に授業をしているが、少々独走的なところがあり受講者とうまくかみ合っていない。
- C 普通である。
- D 一応の授業は行っているが、熱意が感じられない。
- E まったくいい加減である。
- X その他



(試験および及落について)

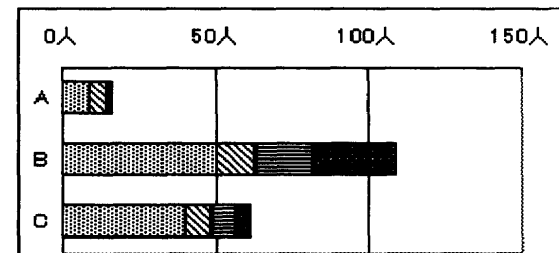
質問 12 試験の難易度について

- A 予想より易しかった。もう少し骨のある問題を出して欲しい。
- B 予想より易しかったが、この程度がよい。
- C 予想程度の難しさであった。
- D 予想より難しかったが、この程度は仕方ない。
- E 予想より難しい。もう少し手をつけられるような問題を出して欲しい。
- X その他



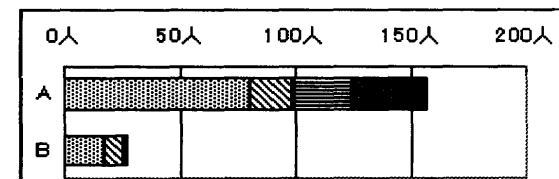
質問 13 試験の出来具合と実際の成績との関係について

- A 自分が思っていたより成績が悪い。
- B 自分が思っていた程度の成績であった。
- C 自分が思っていたより成績が良い。



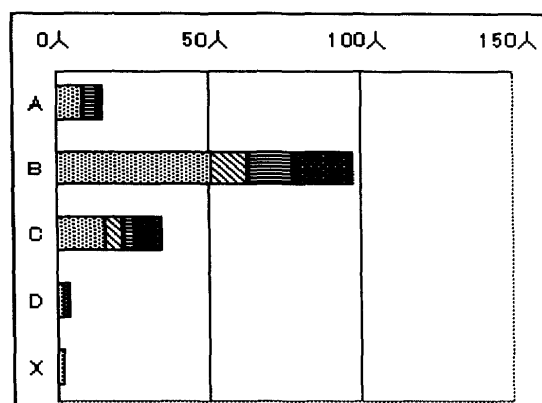
質問 14 この科目に合格しましたか？

- A 合格した。
- B 不合格であった。



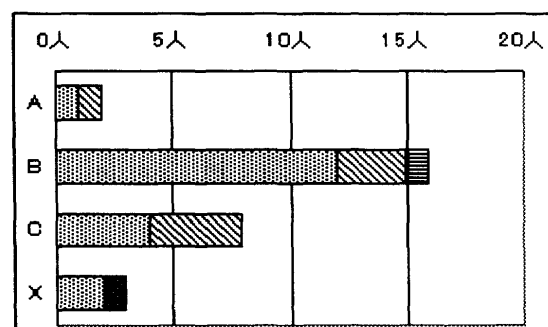
質問 15 (質問 14 で A と答えた人) この授業を受けて得られたものがありましたか？

- A 授業内容を十分理解できて、この分野の知識・考え方・問題の解法・基本的な手段等が身についた。
- B 授業内容を十分に理解したとは言えないが、将来、この分野の課題に直面したときには、復習をしながらそれなりの対応ができるだろうと思う。
- C 何らかのものが残っていると思うが、将来それを生かせる自信はない。
- D 単位はもらったが内容はまったく残っていない。
- X その他

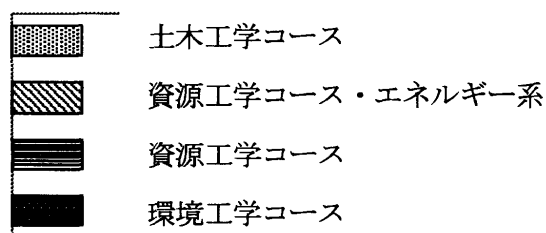


質問 16 (質問 14 で B と答えた人) 不合格であったが

- A 授業内容はわかって試験もまあまあ正答したつもりである。不合格であったことが納得できない。
- B 授業中または試験前はよく理解したつもりであったが、試験を受けてみて理解していないことがわかった。
- C 授業内容がまったくわからなかったもので、不合格も当然である。
- X その他



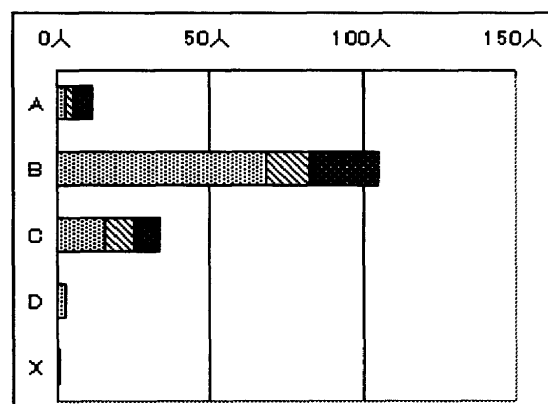
第Ⅱ部 地球工学科のカリキュラム・授業全般について



(まず、将来の志望と専門科目について質問します)

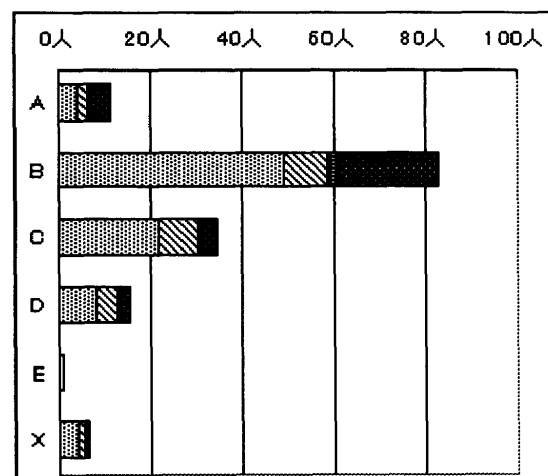
質問1 将来の志望を明確にもっていますか？

- A 将来どのような仕事をしたいかについて、具体的に明確な希望とヴィジョンを持っている。
- B 将来の仕事についてそれなりの希望はあるが、具体的なヴィジョンは持てないでいる。
- C 将来の仕事については、もう少し勉強してから決めればよいと思っている。(今は、具体的に考えていない。)
- D 大学を出てからのことについては、ほとんど何も考えたことがない。
- X その他



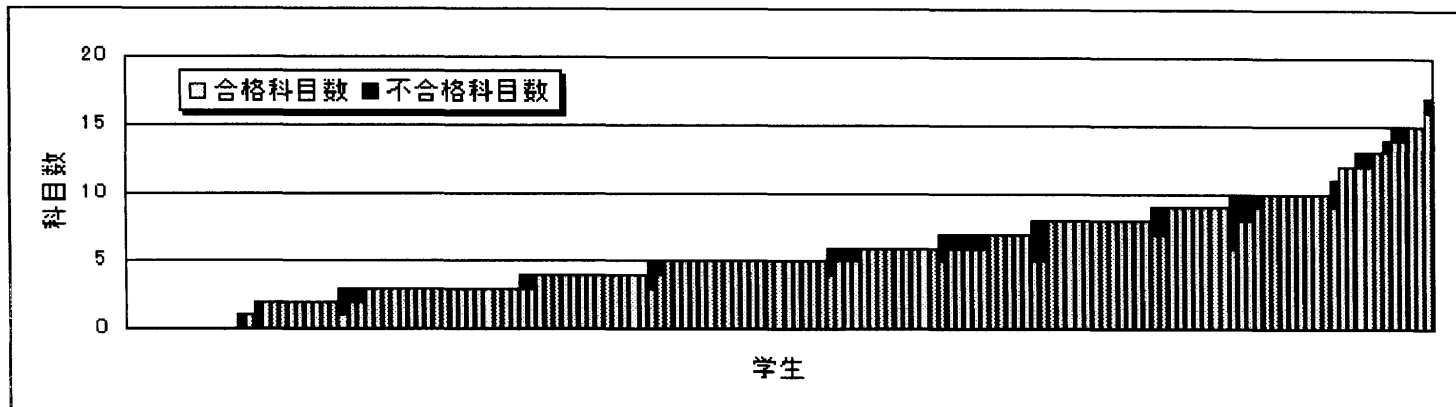
質問2 専門科目全般の受講登録と勉学状況について

- A ほとんどすべての科目に登録し、全部を熱心に勉強してきた。
- B ほとんどすべての科目に登録したが、将来の志望に必要と思われる科目だけ熱心に勉強してきた。
- C ほとんどすべての科目に登録したが、授業を受けてみて易いような(単位がとれそうな)科目だけある程度熱心に勉強してきた。
- D ほとんどすべての科目に登録したが、どれも熱心には勉強していない。
- E 自分の志望にあった少数の科目だけ登録し、それを熱心に勉強してきた。
- X その他

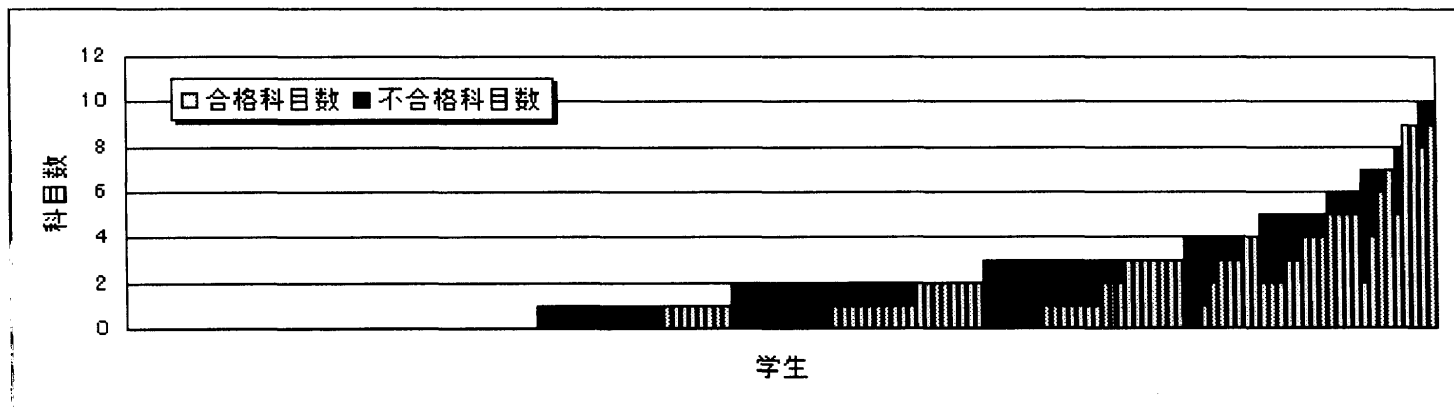


質問 3 3 回生前期の科目の勉強状況と合否について、次の各項目に該当する科目数（おおよそでよい）を答えて下さい。

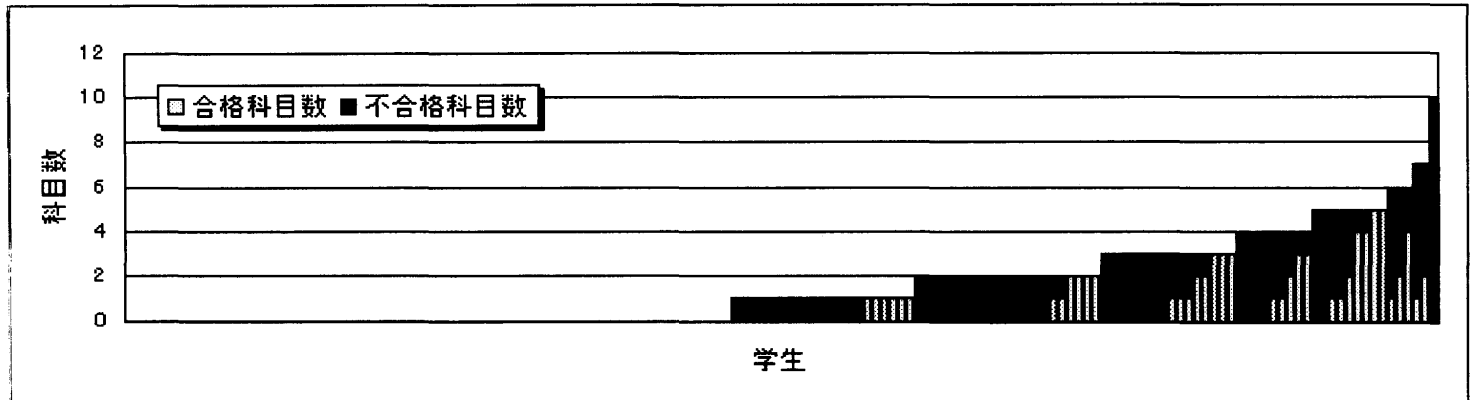
- A 自分ではよく勉強したと思う科目
 (科目)
 A1. その中で合格した科目
 (科目)
 A2. その中で不合格になった科目
 (科目)



- B 勉強しようと思っていたが途中でつまづいて勉強しなくなった科目
 (科目)
 B1. その中で合格した科目
 (科目)
 B2. その中で不合格になった科目
 (科目)

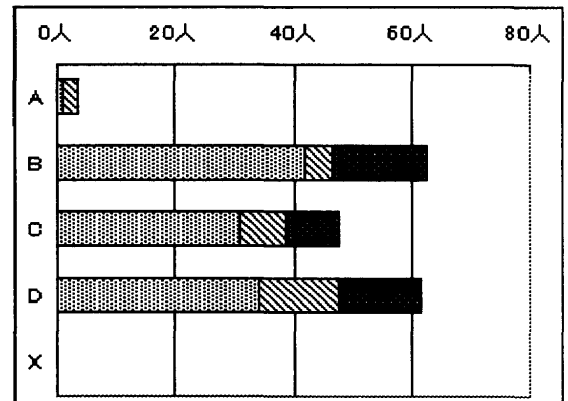


- C 始めから勉強しなかった科目
(科目)
- C1. その中で合格した科目
(科目)
- C2. その中で不合格になった科目
(科目)



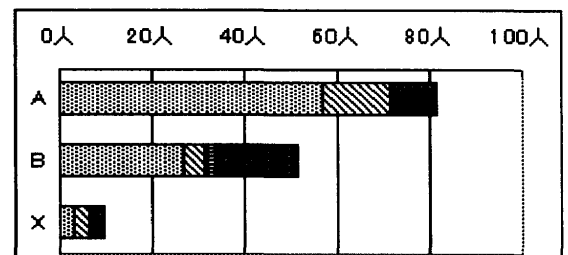
質問4 科目選択についてのガイダンスについて[複数解答可]

- A 科目選択についてはアドバイザーからの助言が役に立った。
- B 科目選択について、もっと体系的な説明が欲しい。
- C 将来の志望が明確でないので、結局、全科目に登録する。アドバイザーの助言やガイダンスがあっても同じことである。
- D 単位のことを考えれば、結局、全科目に登録する。アドバイザーの助言やガイダンスがあっても同じ事である。
- X その他



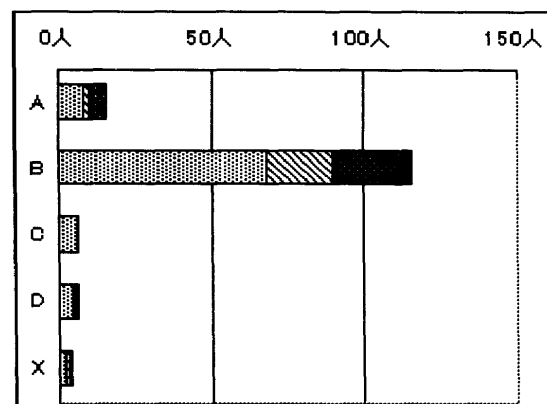
質問5 試験の時間割について

- A 時間割がつまり過ぎていて試験勉強ができない。もっと長期間をとって試験をして欲しい。
- B 今の程度でよい。
- X その他



質問 6 講義に伴うレポートについて

- A 科目内容を理解するのに役に立つから、なるべく頻繁に出して欲しい。
- B 科目内容を理解するのに役には立つが、あまりたくさん出してもらうと対応できないので、ほどほどに。
- C どうせ他人の書いたものを写すのだから、内容の理解には役に立っていない。単位の取得につながるのなら、出してもらえば有難いが。
- D 自分で勉強するべきで、レポートなど不要である。
- X その他

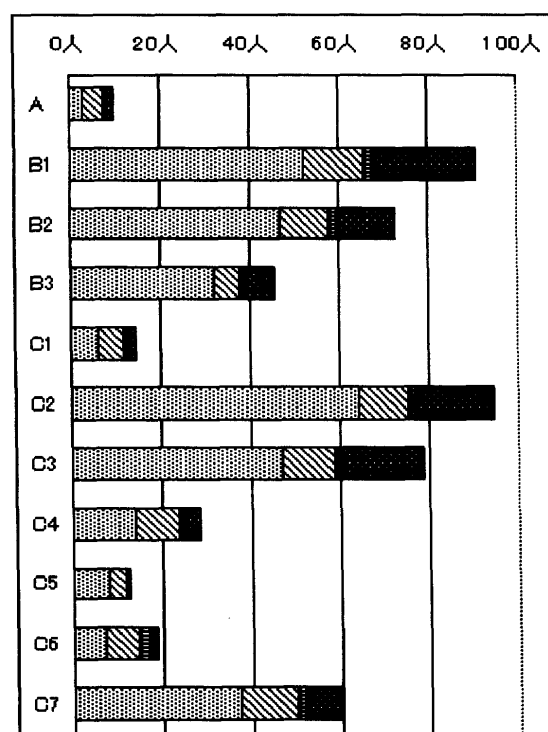


質問 7 (設定なし)

質問 8 専門科目のカリキュラム、授業、アドバイザー(ガイダンス) 制度などについて、意見があれば書いて下さい。

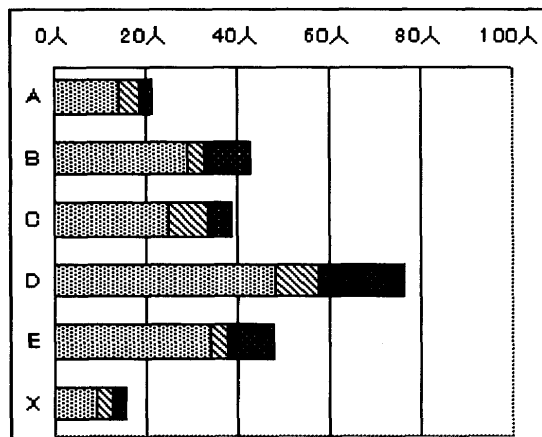
質問 9 科目の内容がわからなくなって、「つまづいてしまった」経験がありますか？(特に印象の強い科目については空欄に事情を書いて下さい)

- A まったくない。
- B つぎの時期にある[複数解答可]
 - B1 1回生
 - B2 2回生
 - B3 3回生
- C つぎの科目である[複数解答可]
 - C1 A 群科目
 - C2 数学
 - C3 物理
 - C4 化学
 - C5 英語
 - C6 英語以外の外国語
 - C7 専門科目



質問 10 (質問 5 であると答えた人) つまづいた主な理由は何ですか。それを解決する方法としてどうしたらよいでしょうか。[複数解答可]

- A 全般的に勉学が忙しすぎた(とるべき科目が多すぎた)。カリキュラムを整理して欲しい。
- B クラブ・サークル活動などで忙しすぎた。課外活動に十分な時間を使えるようにして欲しい。
- C その科目でたまたま欠席したりしたことなどがきっかけとなってついていけなくなった。自分から教官に質問に行くか、チューターがついていて説明してくれていたなら解決できたと思う。
- D その科目の講義の仕方が悪かった。もう少しわかり易い面白い講義ならつまづかなかった。
- E その科目の内容に興味を持てなかった。
- X その他



質問 11 カリキュラムの密度について

- A 全般的に忙しすぎる。
- B つぎの学年が特に忙しすぎる。[複数解答可]
 - B1 1 回生
 - B2 2 回生
 - B3 3 回生
- C こんなものである。
- D つぎの学年で特に余裕がある。[複数解答可]
 - D1 1 回生
 - D2 2 回生
 - D3 3 回生
- E 全般的に余裕がある。
- X その他

